

# 会館だより

2012年 4月号 第274号



公益財団法人日中友好会館

## 「会館だより」4月号の内容

### お知らせ

- ・公益財団法人への移行

### 行事案内

《日中友好会館美術館》

- ・日中水墨画研究会作品展

《日中友好後楽会》

- ・4月談話会

### 活動記録

- ・2月談話会
- ・「祈りと祝福の藍布—  
中国貴州ろうけつ染め展」が閉幕
- ・無錫揚名小学校吹奏楽交流団が来館
- ・新旧後楽寮生が白剛公使参事官を囲む  
懇親座談会に参加
- ・福島県双葉町民と加須市民との  
交流行事に参加して
- ・後楽寮生が日本文化を体験
- ・平成23年度中国社会科学院  
青年研究者代表団第3陣が来日  
「地方自治」、「環境経済」をテーマに交流

### 表紙

### 会館行事と人の動き

『霸王別姫』 作：関良  
(水墨画 1978年 66×49 cm)

# お知らせ

## ◆公益財団法人への移行

日中友好会館は、公益財団法人への移行申請をしておりましたが、このほど移行が認定され、平成24年4月1日より「公益財団法人日中友好会館」として、新たな一步を踏み出すこととなりました。これを契機に公益性と信頼性をさらに高め、役職員一同、気持ちを新たにして日中両国の友好協力関係発展のために、ひいては世界の平和と安定に貢献できるよう努力してまいります。皆様には、今後なお一層のご指導、ご支援を賜りますよう謹んでお願い申し上げます。

### ◇ 公益財団法人日中友好会館 評議員

氏名	現職等
竹下 亘	衆議院議員（自民党）
斎藤 勁	衆議院議員（民主党）
岩沙 弘道	三井不動産会長
殷 秋雄	東京華僑総会顧問
曾 徳深	横浜華僑総会名誉会長
福田 昭昌	元文部科学省 生涯学習局長
成澤 廣修	文京区長
関 誠	日中経済協会理事・総務部長
横川 健	日本中国文化交流協会専務理事
江橋 崇	法政大学法学部教授
木村 興治	日本卓球協会副会長
飯高 和子	書道家、(財)書道芸術院理事
秋岡 榮子	ジャーナリスト、プロデューサー

(13名・順不同・敬称略)

## 行事案内

### 日中友好会館美術館

#### ◆日中水墨画研究会作品展

会期:4月3日(火)~8日(日)

時間:10時~17時(最終日15時迄)

主催:日中水墨画研究会

後援:中華人民共和国駐日本国大使館  
文化部、財団法人日中友好会館、  
東京中国文化センター

入場料:無料

日中水墨画研究会は、千葉県松戸市、柏市、流山市、野田市で、史志輝(中国北京美術家協会会員、来日24年、松戸市在住)の指導のもとで水墨画を学ぶ、会員約90人を擁する会です。水墨画を通じて“小さな交流・広がる友情”を推進することを信条としています。

研究会が毎年地元で開催する日中美術交流展は、既に13回に及んでいます。出品は水墨画、墨彩画、書など多岐多彩にわたり、また現代中国の著名画家の出品を得て、来場者から望外の賛辞を頂くとともに、日中美術の特性が理解できた等の嬉しい評価も頂いています。また日本各地や中国にも写生旅行をして交流を深めています。

この度、関係者のご尽力により、日中国交正常化40周年という記念すべき年に、日中友好会館において作品展を開催できますことを大変光栄であります。多くの皆様のご来臨をお待ちしています。

【お問合せ】日中水墨画研究会

電話:090-7818-8299

### 日中友好後楽会

#### ◆4月談話会

テーマ:「中国医学における治療と健康」

講師:常慶(後楽寮生)

日時:4月19日(木)午後5時より

会場:本館地下1階大ホール

会費:お一人1,500円  
(非会員2,000円)

講師は、無錫出身で、現在東京大学大学院医学研究科にて細胞生物学を研究されている常慶さんです。中国には、数千年来、研究され発展してきた東洋医学の一種「中国医学(中国語:中医)」があり、西洋医学のように病気の箇所だけを診るのではなく、からだ全体のバランスを整える治療(養生)を行います。治療法には生薬の処方、針灸、ツボ療法などがあります。今回は常さんより、中国医学の基本知識、治療(保健養生)、西洋医学との違い、治療法の例などをお話しいただきます。奥深い中国医学を学び、健康維持にお役立てください。

#### 【お申込み・お問合せ】

後楽会事務局 小林陽子

電話:03-3811-5305 FAX:03-3811-5263

メールアドレス: bunka@jcf.or.jp

## 活動記録

### ◆2月談話会

2月16日、寮生の孟繁傑さんを講師に迎えて、「オペラ」をテーマに講義を行いました。孟さんは、大連出身で大連大学にて声楽を勉強、勤務ののち来日しました。現在は東京学芸大学大学院に在学し、オペラ歌手として日々練習に励まれています。

講義では、オペラのパートの種類や、ソプラノパートの分類などを、音源を聴きながら説明されました。孟さんも中国伝統曲を1曲歌い、ソプラノの歌声に参加者は魅了されました。



講師の孟繁傑さん

(後楽会事務局)

### ◆「祈りと祝福の藍布— 中国貴州ろうけつ染め展」が閉幕

1月28日から2月22日の会期で、日中友好会館美術館で開催された「祈りと祝福の藍布—中国貴州ろうけつ染め展」は、約2,060人のお客さまにご来館いただき、好評のうちに閉幕いたしました。

展示した国立中国美術館所蔵の約60点の藍布には、中国西南部の少数民族の女性たちによって吉祥やお守りを意味する紋様や民族の物語が描かれ、平和な暮らしを祈

ってきた民族の文化が映し出されていました。

ご来場の方々は、赤ちゃんをおんぶする時に使う子守帯や、上着やスカートなどの民族衣装、頭巻布や前掛けといった生活用品、祭鼓幡などの祭儀品まで、様々なろうけつ染め作品に魅せられたようでした。「ろうけつ染めに込められた民族の歴史の継承、祈り、祝福の思いとともに、その繊細なデザインや染色の見事さに感動した」というご意見を多くいただきました。

1月31日(火)には、中国側主催者の国立中国美術館党委書記 游慶橋先生や馬書林副館長をはじめとする5名が来日し、開幕セレモニーと中国美術館館員による作品解説が開催され、多くのお客さまにご来場いただきました。



日中友好会館美術館 展覧会の様子

2012年も当会館ならではの企画催事を通して、中国文化をご紹介できるよう尽力していきます。

なお、本展は、山梨県身延町のなかとみ現代工芸美術館への巡回が決定しております。お近くに行かれた際にはどうぞお立ち寄りください。

お問合せ：なかとみ現代工芸美術館  
住所：山梨県南巨摩郡身延町西嶋345  
電話：0556-20-4555  
会期：4月13日(金)～5月20日(日)  
休館日：火曜日

4月13日(金) 10時～ 開幕式開始  
10時半～作品解説・制作実演  
13時～ 作品解説・制作実演

4月14日(土) 10時～ 作品解説・制作実演

※作品解説は来日する中国美術館館員、  
制作実演はミャオ族の女性が行います。

#### ◆無錫揚名小学校吹奏楽交流団が来館

3月5日、上海東方青少年国際文化交流中心が組織した、江蘇省無錫市の揚名小学校吹奏楽交流団と引率者計42名が来館しました。団員は小学6年生の吹奏楽を学ぶ子どもたちで、日本で交流活動を行う為に来日しました。会館では谷野副会長はじめ役員がお迎えし、後楽寮の食堂にて歓迎昼食会を開きました。お揃いの制服に身を包んだ子どもたちが食堂に入るといつにも増して活気にあふれ、食後には代表の子どもたちが「北国の春」などをトランペットやクラリネットで奏でてくれました。団はその後、国立音楽大学にて音大生と演奏を通じた交流活動を行い、実りある来日になりました。



子供たちによる楽器の演奏

(文化事業部)

#### ◆新旧後楽寮生が白剛公使参事官を囲む懇親座談会に参加

2月25日(土)中国大使館教育処において白剛公使参事官主催による後楽寮生OBと現寮生との懇親座談会が開かれました。この会は白剛氏が後楽寮事務室在任時(1990～1992年)の寮生である高知工科大学の任向實教授が当時の後楽寮生に連絡し白剛氏が昨年秋に大使館公使参事官に着任されたのを機に、白氏を囲んで同窓会を行おうとの呼びかけで実現したものです。

当日は発起人である任向實教授が高知から来られたほか、山梨学院大学から熊達雲教授にも足を運んでいただき、汪婉中国大使夫人をはじめとする都内在住の元寮生と共に白公使参事官や現後楽寮寮生と交流を深めました。



20年ぶりに懐かしい仲間達と

元寮生の皆さんが白公使参事官や留学生事業部職員、そして一緒に生活を共にしていた仲間に出会うのは20年振りで、皆さんの近況や昔の思い出話に花が咲き、とても懐かしい会となりました。また、現寮生は大先輩たちとも沢山交流ができたようです。

昨年11月に北京において後楽寮のOB組織である「後楽会(中国)友好聯誼会」が発足されましたが、今回の同窓会を機会に日本における後楽寮OBのネットワークをさらに発展させるべく、任向實教授を中心に確たる組織づくりをしていきたいと思っています。



白剛公使参事官を囲んで

(留学生事業部)

### ◆福島県双葉町民と加須市民との 交流行事に参加して

東日本大震災から一年が経とうとしていますが、福島県などの被災した方々は今もなお避難生活を余儀なくされ、現在加須市にある旧騎西高校には福島県双葉町より600名以上の方が避難生活を送っています。この皆さんを励ます活動の一環として2月26日に加須市内のボランティア団体「ふれあいセンター加須」による、双葉町民と加須市民との第2回交流行事を行うにあたって、日中友好加須市民会議より後楽寮へ、中国人留学生による“餃子コーナー”に協力してほしいとの要望がありました。

連絡を受け、寮生委員会はさっそく寮内にある掲示板へ参加者の募集を呼びかけた結果、寮生委員長である私と寮生の傅雨飛さん、陳忠明さん、そして留学生事業部の周暁光部長と奥様の張莉莉さんが参加することになりました。

26日は朝7時に寮を出発し、電車を4回乗り換え10時前に加須駅へ着きました。駅では加須市のボランティア団体「しずくの会」の石井喜久子会長はじめとする皆さんが改札口で私たちを迎えてくれました。簡単な自己紹介をした後、今回の会場である旧騎西高校へ車で案内してくれました。校舎には双葉町から多い時で1,200名の方々が避難され、天皇陛下がお見舞いにいらっしやったことがあります。私たちが到着した時、駐車場には多くの双葉町からの乗用

車と“双葉町”と書いてある大型バスが駐車されているのが見えました。

会場に着き、氏名を登記して靴を履き替え中へ入りました。会場は以前多目的ホールとして利用していたような所でした。ホールに入ると真ん中に沢山の机と椅子が並べてあり、避難している方や来賓の方々が座っていました。左側には2か所の餃子を作る場所があり、その奥は厨房、右側では皆さんへ生け花を教えていました。私達はさっそく無駄話もせず上着を脱ぎカバンを置いてエプロンをつけて寮から準備してきた麵棒を取り出すと、すでに餃子作りに格闘中の埼玉県在住の中国の方々と一緒に作業を始めました。



ひたむきに餃子を作る

この交流事業に参加した被災者や来賓、ボランティアは1,000名以上いて、埼玉生協では40キロの小麦粉と具を準備してくれたそうです。麵を練り、皮を伸ばし、具を包むといった餃子をゆでる前の全工程に参加者はかかわっていましたが、作業開始時には餃子を作ったことがない方もいて、餃子を作るスピードが間に合わないと感じていました。しかも1,000人分を作るなんて！それを見て、留学生事業部の周部長が私達に何か所かに分かれ皮の伸ばし方を実演するように指示をし、張夫人にも参加者と一緒に作り方を教えました。すると2時間後には参加者がみんな餃子作りのエキスパートになりました。

すでに12時が過ぎ、ゆであがった餃子を

受け取る人の列も多くなっていましたが、皆は気を緩めず引き続き各自の作業をしていました。すると、一人の男の子がこちらへ駆け寄り「餃子が食べたいなあ」と言ってきました。私たちは中にいるおぼさんの所へ行くと餃子がもらえる事を教えると、男の子は走って餃子を取りに行きおいしそうに食べていました。みんなはその様子を見てとてもうれしくなり、さらに引き続いて各自餃子作りをすると同時に連帯感のようなものを感じ始めました。



餃子作りの同志

このように餃子作りはそれぞれのパートを担当しながら午後2時半まで続けました。その中で私達以外のボランティアがずっと気になっていた事があったそうです。それは私達の中にいる中年のボランティアで大学教授のみならず中国教育部から派遣された後楽寮の責任者——周曉光部長の事です。なぜならば、彼は最初から最後までずっと立ち続け、わずかな時間も座ることなく、ずっと麵を練り、皮を伸ばし、そして再び麵を練り、皮を伸ばし……………。

最後に主催者に招かれ、十数名のボランティアは壇上へ上がり皆さんと一緒に記念撮影をしました。

この交流行事終了後、日中友好加須市民会議の河野会長数名は車で加須駅まで送っていただきました。4時間余りのボランティアの中、河野会長と話をする時間はありませんでしたが、周部長はまた機会があれ

ばこのような有意義な活動に参加したいと感謝の言葉を述べました。河野会長は遠くからボランティアに来たことを感謝し、次回またこのような活動があれば連絡したいとおっしゃっていました。私たちはエスカレーターにりましたが、皆さんの名残惜しんでいる様子が階下からうかがえました。

後楽寮へ着いたのは夕方6時近くでした。今日のような一日のボランティアを通して餃子作りの名手を養成し、福島県の人たちと触れ合うことができました。少し疲れましたが福島の人たちに中国の餃子を作り、気持ちを添えるのはとてもいいことだと思います。同時に避難所の環境をうかがうことができ日本での留学生生活を大切にしたいと改めて思いました。

私達は被災地の方々が困難を乗り越え、一日も早く元の生活に戻ることを願ってやみません。



双葉町の皆さんへ元気を！

(後楽寮寮生委員会 劉 明全)

#### ◆後楽寮生が日本文化を体験

3月1日群馬県万座温泉にある日進館のご協力のもと、28名の寮生が朝8時に後楽寮を出発し4時間の道のりをかけて群馬県吾妻郡嬭恋村にある万座温泉で日本の文化である温泉、そしてスキーを体験しました。

万座温泉は緑に囲まれた上越高原国立公園内に位置し、海拔1,800メートルの高山温泉郷です。湧出量は1日に600万リットルもあり、泉質は27種類、呼吸器病や胃腸病、リウマチや皮膚病に効果があるといわれ、さらに美肌効果もあり女性にも人気があります。お年寄りの中には毎年湯治に訪れ長寿を保っている方もいるそうです。そして福田赳夫元総理ご夫妻もこの常連客とうかがいました。



おそろいのスキーウェアに身を包んで

日進館へ着くとすぐに旅館のスタッフから熱烈的な歓迎を受け、チェックインの手続きをしました。少し休憩した後、スキーの道具を借りてスキーウェアに身を包みスキー場に行きました。ほとんどの寮生が初めてのスキーだったため、大野先生にはとても熱心に指導してもらい、馮文化事業部長も応援してくれる中、お互いに助け合いながら滑る練習をしました。しばらく経つと基礎的なスキーはみんなができるようになり、コースに出ることができました。

だんだん日も暮れ、私たちは旅館へ戻りました。そしていよいよ温泉を体験することになりました。日進館にはそれぞれ特徴

的な3種類の温泉があり、特に露天風呂は乳白色で白い湯気が立ち硫黄の香りが漂います。周囲は雪景色で、空を見上げると昇ったばかりの星が湯気から隠れたり現れたりしていて本当にきれいでした。

夜には歓迎宴を開いていただき、女将さんの黒田麻利子さんから今回中国の留学生が訪れたことを歓迎するとともに日本の文化である温泉を満喫してほしいとの挨拶がありました。馮部長は今回の熱烈的な歓迎に感謝し、記念品を贈りました。夕食後には旅館からの出し物を見た後、さらに温泉へ入りリラックスした雰囲気の中、日本文化を満喫しました。そして寮生同士の交流もますます深まりました。

次の日は雪でしたが私たちは温泉とスキーの2組に分かれ、それぞれ楽しみました。午後3時になり、私達はバスに乗り東京へ戻りましたが、帰りのバスの中ではみんな楽しそうに歌ったり話をしたりと今回の日本文化体験の有意義な活動の余韻に浸っていました。



日進館の女将さんと

(留学生事業部)

◆平成 23 年度中国社会科学院  
青年研究者代表团第 3 陣が来日  
「地方自治」、「環境経済」をテーマに交流

2 月 26 日から 3 月 3 日までの日程で、平成 23 年度中国社会科学院青年研究者代表团第 3 陣（団長＝房寧・中国社会科学院政治学研究所所长、副団長＝王鐳・中国社会科学院国際合作局副局長）が来日した。

本団招聘事業は、当財団が外務省から委託を受け実施したもの。一行は、中国社会科学院及び地方の社会科学院に所属する若手研究者 51 名で構成され、「地方自治」及び「環境経済」をテーマに 2 グループに分かれ、埼玉、千葉、東京、神奈川のほか京都を訪問した。

2 月 27 日夕刻に行われた当財団主催の歓迎レセプションは、村田直樹外務省広報文化交流部長、文徳盛中華人民共和国駐日本国大使館政治部参事官らが出席し、総勢 130 名で賑やかに行われた。村田広報文化交流部長の歓迎の言葉に続き、房寧団長は、本年が日中国交正常化 40 周年であることに触れ、「代表团は両国が国交回復した後に生まれた世代。先達に続き、日中友好を更に発展させてくれることを期待する」と述べた。



歓迎レセプションにて中国社会科学院より  
（財）日中友好会館へ記念品が贈呈された。  
（左）房寧代表团団長、（右）村上立躬理事長

地方自治をテーマに活発な意見交換

房寧団長以下地方自治分団 26 名は、総務省では、日本の地方自治の現状と課題についてブリーフを受け、地方自治の全体像を理解。また、牛山久仁彦明治大学政治経済学部教授との交流では、より具体的に住民生活と地方自治について講義を受け、中国側も中国の地方自治制度について発表を行った。

首都圏ではその他、さいたま市と松下政経塾を訪問。さいたま市では、清水勇人市長を表敬訪問の後、小グループに分かれて市議会議員と意見交換を行った。地方議会の仕組みや、議員と市民との関係、選挙について等、多くの質問が出た。松下政経塾では、現役塾生 4 名と入塾動機や、進路希望、なぜ政治に興味を持ったのか等、率直な意見交換を行い大いに盛り上がった。

京都府では、山田啓二知事を表敬訪問。山田知事は日本の地方分権について触れ、今後は日中の地方都市間でも活発に交流をしていきたいと述べた。

その他京都では、障害者雇用と就労の現場を視察するため、オムロン京都太陽株式会社を訪問。日本企業の社会的責任について理解を深めた。また今川晃同志社大学政策学部教授との交流では、教授が実際に関わってきた地方都市のまちづくりについて話題が盛り上がり、房団長からは今後、まちづくりについて日中で合同研究を行っていきたいという希望が述べられた。

環境と経済の両立をテーマに交流

王鐳副団長以下環境経済分団 25 名は、環境省にて国の施策の理解を深めるとともに、地方自治体の例として環境モデル都市である京都市を訪問。天ぷら油を回収・燃料化し利用する取り組み、ボランティアを活用した環境教育施設などを視察した。また、企業の取り組み例として株式会社日立産機システム習志野事業所を視察、省エネを徹底した工

場経営・管理に関し団員からは質問が相次いだ。

研究者交流では、細田衛士・慶應義塾大学経済学部教授、諸富徹・京都大学大学院経済学研究科教授からそれぞれ資源循環型社会、気候変動政策に関し講演を聞いた後意見交換を行った。国土が狭くゴミ処理問題として市民の視点からスタートした日本のリサイクルの歴史・現状、そして日本の排出権取引制度の議論状況は、国情は違えども中国にも多いに参考になるとして団員からも活発に意見が出された。

また、東京財団では、「東日本大震災後の環境政策」、「中国第十一次五カ年計画以降の汚染物質排出削減政策」について日中双方から基調発表があり、これを踏まえ、日中の研究者が自由に意見交換を行った。

も出席し、和やかな会となった。訪日を締めくくり、団員代表が、日本に対する印象や専門交流に関し「日本の最先端技術にふれることによって視野が広がった。この知識を是非今後の自身の研究に役立てたい」、「日中両国は少子高齢化など、現在同じような社会的問題に直面していると分かった。これから共に手を携え研究協力をしていきたい」と感想を述べた。

代表団はすべてのプログラムを終え、3月3日に関西空港より帰国の途についた。本代表団の受け入れにご協力下さった外務省及び関係機関・大学等の皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げたい。

(総合交流部)



環境経済分団が株式会社日立産機システム  
習志野事業所を視察

両分団ともに共通のテーマでの質疑・意見交換はいずれも予定時間を超えて活発に行われた。一行は、このほか国会議事堂、憲政記念館を参観したほか、京都市内で世界文化遺産である清水寺や古くからの建築様式である町屋を参観するなどし、京文化を体感した。

3月2日に京都市内で行われた歓送報告会には、京都での交流先の関係者を始め、同財団からは谷野作太郎副会長、村上立躬理事長

## 会館行事と人の動き 2/1～29

### ● 会館行事

- 1/28～2/22 ▶ 主催展「祈りと祝福の藍布-中国ろうけつ染め展」
- 1/30～2/4 ▶ 中国美術館代表団来日
- 2/2 ▶ 後楽会気功・中国画教室
- 2/16 ▶ 後楽会気功・中国画教室、後楽会談話会「オペラについて」講師:孟繁傑
- 2/20 ▶ ESCO事業及び消防設備工事 竣工式、直会(於:北野神社、豫園)
  - ▶ 中国料理・楓林 調印式
- 2/21 ▶ 日中学院評議員会
- 2/25 ▶ 白剛公使を囲んだ元寮生との懇親座談会(於:中国大使館教育処)
- 2/26～3/3 ▶ 中国社会科学院青年研究者代表団第3陣 来日(2/27同団歓迎レセプション)
- 2/27 ▶ 寮生委員会主催学術サロン 講師:日野正平(元寮生)
- 2/28～3/4 ▶ 中国奥地の蘭展・難波清邱喜寿展(協賛:書峯展)

### ● 来館・訪問・面会

- 2/1 ▶ 大樹総研 松田学執行役員来館(村上理事長他)
  - ▶ ジャパンジャーナル千葉氏ら来館、取材(村上理事長)
- 2/2 ▶ 日本僑報社 張景子社長来館(村上理事長)
  - ▶ 三木繁光理事往訪(村上理事長他)
- 2/8 ▶ 中国大使館 郭燕公使参事官来館、着任挨拶(村上理事長他)
- 2/9 ▶ 江橋新評議員来館(村上理事長、武田常務理事他)
- 2/10 ▶ 岸陽子女史来館(村上理事長、王理事他)
- 2/14 ▶ (公社)青年海外協力協会 金子会長来館(武田常務理事)
  - ▶ 竹下理事往訪(武田常務理事)
- 2/22 ▶ 新任監事・橋山氏、加藤氏との懇親会(村上理事長他)

### ● 行事参加、その他の活動

- 2/4 ▶ 渋谷区日中友好協会春節のつどい、千代田区日中友好協会新春のつどい(留学生事業部)
- 2/7 ▶ 横浜華僑総会との会食(武田常務理事)
- 2/10 ▶ 中国書法研究院・張傑夫妻歓迎昼食会(村上理事長他)
- 2/11 ▶ 吉林省外事弁公室代表団歓迎宴(武田常務理事、王理事他)
- 2/16～2/18 ▶ 日中友好7団体会長訪中(江田会長、村上理事長、武田常務理事)
- 2/19 ▶ 東京都日中友好協会主催「漢詩カルタ大会」(留学生事業部)
- 2/24 ▶ 中国大使館 薛劍参事官送別会(村上理事長、武田常務理事、王理事他)
- 2/26 ▶ 加須市ボランティア団体「しずくの会」主催餃子作り(留学生事業部)